

# 準高冷地夏秋どり白ネギの適品種 ‘項羽一本太’

## 1 新しい品種(又は種畜)の内容

### (1) 背景・目的

鳥取県の準高冷地の白ネギ栽培は8月から11月頃にかけて収穫する作型が中心となるため、夏越し時の根傷みや軟腐病等の発生等により、収量の低下が問題となっており、夏越し性が高く、収量の高い品種が求められていた。そこで、品種比較試験を実施した結果、‘項羽一本太’（トーホク）を有望品種として選定したので紹介する。

### (2) 品種‘項羽一本太’の要約

- 1) ‘項羽一本太’に対して肥大が早く、収量性に優れる。
- 2) 首の伸びが小さく、襟割れや腐敗が少なく、在圃性に優れる。
- 3) 下図1のような作型に適する。

作型	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
盆前(8月)どり	○									▲	▲														□	□							
9月どり				○						▲	▲																	□	□	□			
秋冬どり						○				▲	▲																				□	□	□

○播種 ▲定植 □収穫適期

図1 準高冷地における‘項羽一本太’の適作型

## 2 試験成果の概要

### (1) 品種比較試験

#### 1) 秋冬作型

‘項羽一本太’は2020~2023年の調査より、品種特性は‘関羽一本太’に類似し、夏越し性が良く肥大性にも優れ、慣行品種以上の収量だった(表1)。耐寒性に特段の問題は見られず、秋冬作型では慣行通りの利用が可能と考えられた(達観)。

#### 2) 夏どり作型

2022年までの良好な結果が得られえたことから、夏どり作型でも試験を実施した。‘夏扇パワー’に近い収量性と、高い在圃性が認められ、夏どり作型での利用も可能と考えられた(表1)。ただし、首の伸びは小さいため、栽培期間の短い作型では土寄せ時の首の埋もれに注意を要する。

#### 3) 品種特性

葉色は‘関羽一本太’と同様に濃緑色で、首の伸びは小さく、襟部の締りがよい。ナメ(ネギ葉身内部の粘物質の通称)の量は、多いとされる‘夏扇パワ

一' と同等程度に確認されたので、ナメ切り作業は徹底する必要がある。

表1 収量調査

作型	調査期間	品種	上物 本数 (本/a)	上物 収穫率 (%)	上物 収量 (kg/a)	平均 一本重 (g)	3L+2L +L率 (%)	ケース 数 (箱/a)
盆前どり (1回目)	2022	夏扇パワー (慣行)	2,574	85.0	391.4	152.1	98.0	108.5
		項羽一本太	2,675	88.4	371.4	139.3	93.6	103.8
盆前どり (2回目)	2022	夏扇パワー (慣行)	2,094	69.2	333.2	158.8	96.7	93.4
		項羽一本太	2,347	77.5	338.5	144.1	91.1	94.8
9月どり	2022	夏扇パワー (慣行)	2,848	78.3	484.7	169.8	95.0	132.5
		夏扇4号 (慣行)	2,394	65.8	320.3	133.1	85.5	89.5
		項羽一本太	3,091	85.0	457.1	147.5	97.3	126.4
秋冬どり	2020~2023	夏扇4号 (慣行)	2,879	79.2	420.6	138.5	80.1	115.5
		関羽一本太 (慣行)	2,674	73.5	385.7	148.9	81.1	107.5
		項羽一本太	3,212	88.3	446.9	141.8	79.2	123.3

※盆前どりは概ね20日後に2回目調査を実施。

※栽植本数は、盆前どりは33.3本/m、9月・秋冬どりは40本/m。畝間はいずれも1.1m。

表2 品種特性

品種	首の締り	立性	葉色	首の伸び	ナメの多さ
夏扇パワー (慣行)	並	並	並	大	多
夏扇4号 (慣行)	並	並	並	やや大	並
関羽一本太 (慣行)	やや良	並	濃	小	並
項羽一本太	良	やや立	濃	小	やや多

※2020~2023年の達観調査をもとに集計

※ナメの多さは2022年、2023年のみ実施

### 3 普及の対象及び注意事項

#### (1) 普及の対象地域

県下全域の準高冷地

#### (2) 注意事項

- 1) ナメの量は慣行品種‘夏扇パワー’と同等程度に多かったため、ナメ切り作業は十分に行う必要がある。
- 2) ‘夏扇パワー’に比べ首の伸びは小さいため、栽培期間の短い盆前どり作型では、土寄せ作業には十分に注意を払い、首の伸びに合わせながら行う。

### 4 試験担当者

( 日南試験地 研究員 前田 真吾 )  
( 試験地長 小谷 和宏 )